

知事メッセージ

広島県では、令和2年に策定した総合計画「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」において、将来の目指す姿とその実現に向けた取組の方向性を県民の皆様にお示しました。

このビジョンによる新たな広島県づくりを、県民の皆様とともに、着実に推進するに当たっては、県の組織が存在する意義、職員が共有すべき価値観、実践すべき行動指針について、職員全員で取りまとめた「広島県職員の行動理念」の徹底を図っています。



近年、グローバル化の進展や急速に進むデジタル技術、激甚化・頻発化する自然災害など、社会経済環境が急速に変化し、県職員が向き合う行政課題や県民ニーズは複雑・多様化しています。

一方で、令和5年には、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことで、いよいよコロナ禍の制約を強く受ける社会状況から脱却し、令和5年5月に開催されたG7広島サミットをはじめ、様々な活動が活発化する中で、社会には徐々に「明かり」ができてきました。

この「明かり」を確かなものとし、将来に向けて更に輝かしいものとしていくためには、職員一人一人が行動理念を軸に一丸となり、広島県の持つ底力を最大限に引き出し、新たな価値を生み出す挑戦をしていくことが重要です。

広島県庁には、地域を愛し、県民のために貢献したいという思いを持った職員が集まり、ともに力を合わせて、ビジョンを実現するための様々な取組を行っています。

私たちは、ただ安定を求めているだけの人は求めています。私たちが掲げる理念やビジョンに共感し、広島県という地域をより良くしていくために、情熱を燃やし、果敢に挑戦する強い志を抱いている皆さんを、心からお待ちしています。一緒に新たな広島県づくりに挑戦しましょう！

広島県知事 **湯崎英彦**

広島県職員の行動理念

【私たちの使命】

私たちの使命は、県民の信頼と負託をすべての出発点とし、社会を構成する様々な主体と連携しつつ、地域社会全体の価値を高め、発展させ、将来にわたって、広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かったと心から思える広島県を実現していくことです。

【私たちの価値観と行動指針】

- 私たちは、広島県を愛し、誇りを持ちます。
- 私たちは、県民のために存在します。
- 私たちは、高い志と責任感を持って誠実に行動します。
- 私たちは、率直かつ積極的に対話します。
- 私たちは、現実を直視し、変化に対応します。
- 私たちは、変革を追求し続けます。
- 私たちは、成果にこだわり続けます。

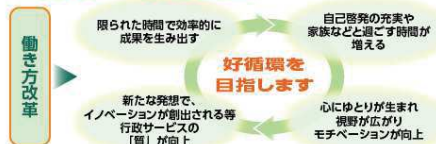
広島県庁の働き方改革

全ての職員が、仕事も暮らしも
欲張りなライフスタイルを実現できるように
県庁働き方改革に取り組んでいます!!

《目指している姿》

全ての職員が、意欲や達成感を持って仕事に取り組み、かつ、健康的に暮らしを楽しむことができる生活を実現させながら、広島県全体の価値を高めることができている。

《働き方改革による好循環》



《職員の勤務時間及び勤務状況》

(1) 職員の勤務時間 (令和5年4月1日現在)

1週間の勤務時間	開始時刻	終了時刻	休憩時間
38時間45分	8:30	17:15	12:00~13:00

(注) 交替制勤務職場等を除く。

(2) 時間外勤務及び休日勤務の状況 (令和4年度)

職員1人当たりの月平均時間外・休日勤務時間数
13.77

(3) 年次有給休暇の取得状況 (令和4年)

職員1人当たりの平均取得日数	取得率
12.78	63.9%

(注) 取得率 = 平均取得日数 ÷ 20日

先輩×後輩 対談インタビュー

● 対談者プロフィール

総務局 研究開発課
【先輩】西川 直孝 (入庁6年目)
【後輩】中山 颯妃 (入庁1年目)



「広島県庁で働く」

先輩のサポートや職場の雰囲気は？

西川：入庁6年目で、主に予算関係の業務に従事しています。

中山：土地の使用許可や建物の管理など庶務を担当しています。もう少しで入庁して1年になるのですが、だいぶスムーズに業務を進められるようになってきたと思います。最初はついていくのに必死でしたが、やり方だけでなく、その業務が「何のためにあるのか」という目的も先輩から教えてもらったので、より理解を深めた上で、それぞれの業務に臨めるようになりました。



職員間のコミュニケーションについて

西川：日頃から気兼ねなく話してもらえるような雰囲気づくりを心がけ、まずはしっかり聞くようにしています。



中山：上司と1対1で対話できる「1on1 ミーティング」も定期的な実施されていますし、職場では業務のことでプライベートなことでも、何でも聞いてもらえます。

受談者の皆さんへメッセージ

特に若いうちは3~4年ごとにいろいろな部署を回ることで、定期的に新しいことにチャレンジでき、刺激を受けられます。新しい部署では「興味を持つ」ことが大事だと思います。積極的に情報を取り入れて「知りたい」「やってみよう」と主体的に思えば、いろいろなことがより身につけやすいのではないかと思います。



西川 直孝



中山 颯妃

ほかの部署の同期からも、「職場への不安はなく、先輩や上司がしっかりとコミュニケーションをとってくれる」と聞いているので、安心して入庁してほしいと思います。